

# ライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣

医

の

テ



68



吉田動物病院長

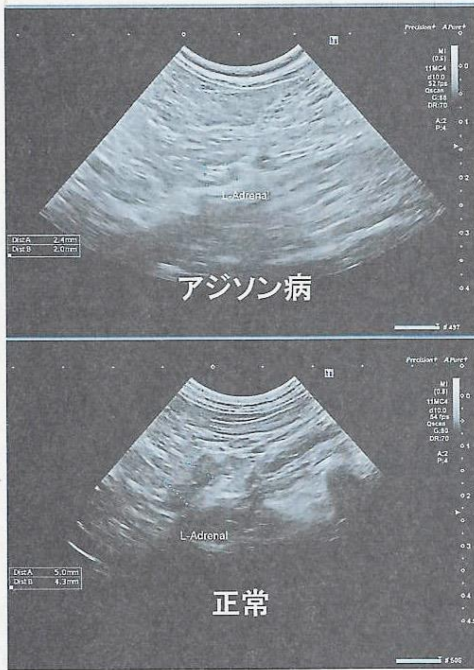
(射水市小島)

吉田 俊一

元気が消失や抑うつ状態、食欲不振、嘔吐、下痢やまれにある血便などの消化器症状は、動物病院に来院する犬たちにとっては珍しい症状です。通常は補液や制吐剤、下痢止め、抗菌剤などの一般的な処置で回復します。

今回のテーマのアジソン病(副腎皮質機能低下症)は、症状のほとんどが前記のようなため「偉大なるものまね師」とも言われます。副腎は左右の腎臓の頭側にある小さな臓器です。典型的なアジソン病は、副腎皮質から分泌されるホルモンである糖質コルチコイドと鉱質コルチコイドが不足することで発症します。症状を繰り返した

## アジソン病



アジソン病のため萎縮した副腎(上)と正常な副腎

## 繰り返す体調不良

そのまま放置した場合、ショックや死を招くため適切な診断と治療が必要ですが、症状が慢性かつ非典型的であるため、発見が遅れることも少なくありません。

発症は中年の雌犬に多く、国内ではトイ・プードルやパピヨンに多いとの報告もあります。猫では非常にまれです。発症時には副腎

機能の約90%が消失しています。ストレス(宿泊やトリミングなど環境変化)が引き金となつて症状が出る事が多いため、このタイミングで病気を疑うことが早期発見につながります。

診断には血液検査、腹部超音波検査や胸部レントゲン検査が必要です。ショックに陥っている場合

は、緊急入院でモニターや検査をしながら急速輸液やステロイドを投与する治療が必要です。症状が落ち着いた後は内服または注射と定期検診によって良好に体調を保てますが、生涯を通して治療は続きます。過剰なストレスがかかることが分つているときは、薬の用量を増やして発症を予防します。

最近では典型的(定型アジソン病)以外の非定型アジソン病も見られるようになりました。通常の血液検査だけでは見落とす恐れがあり、副腎皮質刺激ホルモン刺激試験も追加が必要となります。この場合も副腎の萎縮があるため、超音波検査は重要です。ステロイドの内服で体調は維持できますが、一部は定型アジソン病に進行するため定期検診が必要です。

原因がはっきりしない体調不良の裏にはアジソン病が潜んでいるかもしれません。繰り返す症状に不安を感じられる場合は、動物病院での検診をお勧めします。